平成30年度、令和元年度 北山田留守家庭児童育成室の検証結果について

令和２年12月
吹田市教育委員会
地域教育部 放課後子ども育成課

吹田市立北山田留守家庭児童育成室「あやめ学級」（以下「北山田育成室」という。）については、平成30年４月から新都共栄株式会社に業務委託し、委託期間については、平成30年４月から令和３年３月までの３年間としている。

児童福祉法において、事業に必要な水準を確保するため、市町村による事業者への調査、命令等の規定に基づき、運営業務を民間に委託している留守家庭児童育成室（以下「育成室」という。）の運営状況に関して、放課後子ども育成課による検証を行い報告するものである。

～検証方法～

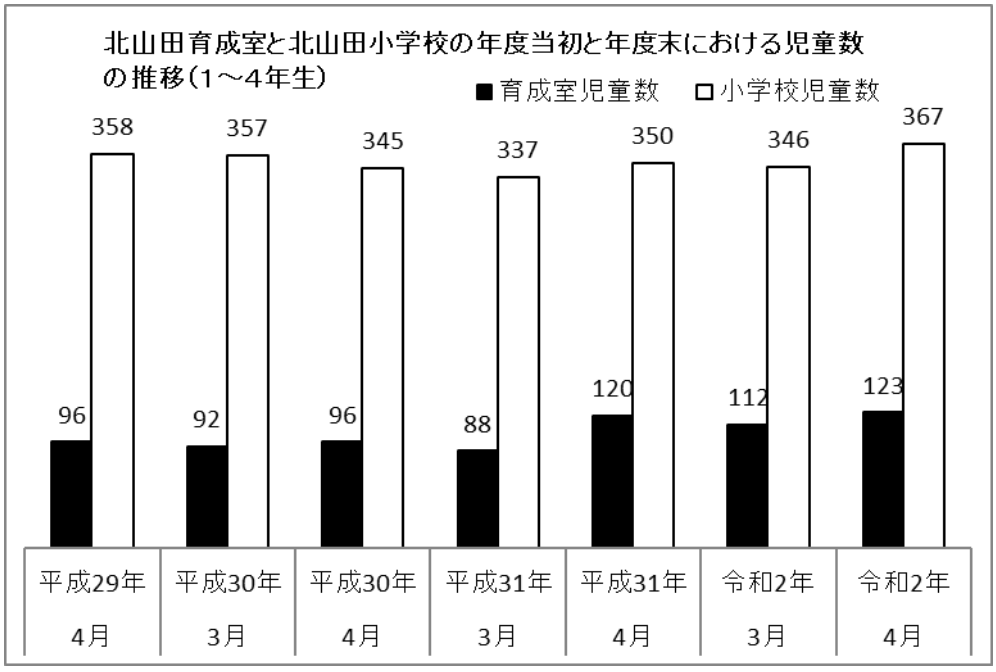
１　放課後子ども育成課職員［担当事務職員、スーパーバイザー（ＳＶ ※元公立保育園保育士)］による現地視察（週１回程度）
２　保護者へのアンケート（委託初年度：年間３回、２年目以降：年間１～２回）
３　事業者への聴き取り
４　チェックシートを用いた業務の履行状況の確認と評価

１　入室児童数等について

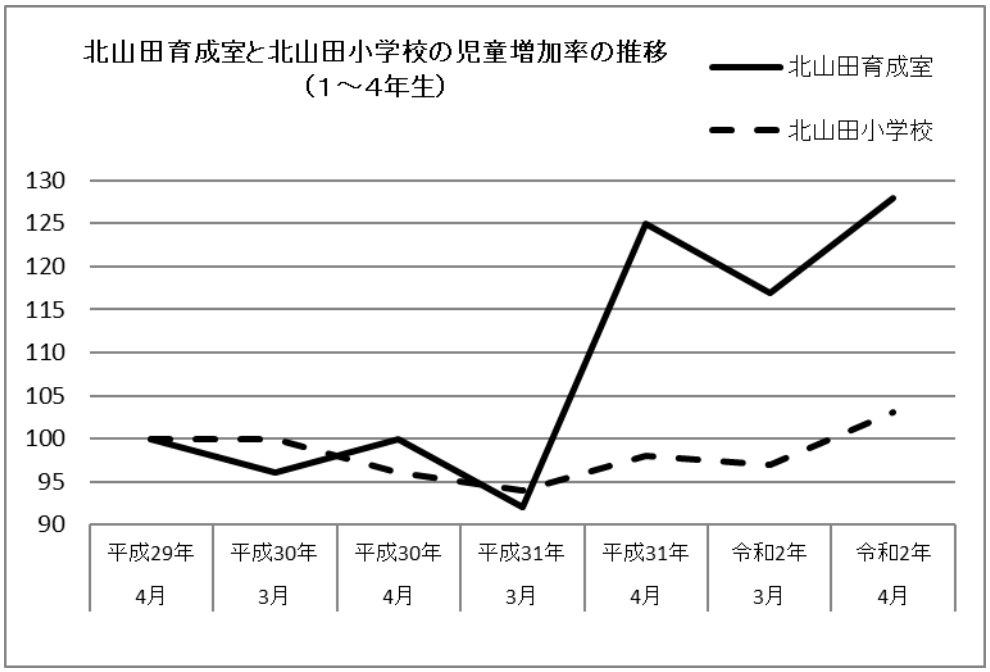
北山田育成室については、平成31年４月時点で120人在室（学年内訳、１年：43人、２年：33人、３年：35人、４年：９人）しており、うち配慮を要する児童（障がいを有する児童）が４人在籍している。３教室で運営しており、１教室あたりの児童数は、40人となっている。児童数の規模としては、36育成室中23番目であり、本市の育成室の中では中規模である。

今後の児童数の推計は、小学校児童数は同水準で推移する見込みであり、入室児童数も令和元年度に増加はしたものの、一時的なものであり、今後は同水準で推移する見込みである。【表１・2】

【表 1】

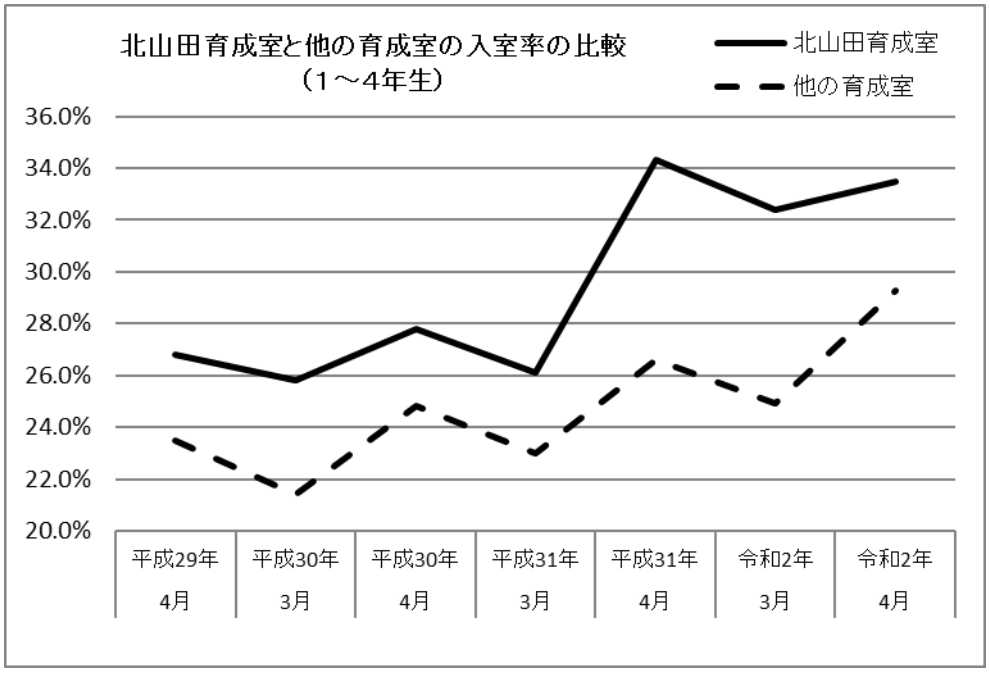


【表 2】



北山田育成室の平成 29 年度から令和元年度までの入室率（小学校児童のうち育成室を利用している児童の割合）は【表 3】のとおりとなっている。北山田育成室の入室率は、委託前の平成 29 年度から他の育成室と比べて高い率で推移してきているが、平成 30 年度末及び令和元年度４月当初は、入室率がさらに高い率となっており、この値からも保護者が民間事業者である現在の委託事業者による運営内容に不安を覚え、入室を控えていることは読み取れない。

【表 3】



2　保育内容について

（1）日常における保育の取組について

北山田育成室の日常の保育の取組としては、仕様書に沿って行われており、児童の健全育成への貢献は十分であると認められる。理由としては、以下を挙げることができる。

ア　児童の登室、帰室状況等の把握をしっかり行っている

育成室の黒板等を活用し、入室児童名のマグネットを用いて、登室、帰室状況や、早帰りの時刻、延長利用の有無等の情報を掲示している。これにより、入室児童や指導員間において、常に最新の登室児童の状況を共有し合うことができ、登室管理をしっかり行っている。

イ　班活動や遊びを通じた児童の集団作りを行っている

学級内では基本的に班で行動し、まずは小集団での関係を深め、定期的に班替えを行い、その関係性を広げていく工夫をしている。

また、みんな遊びとは別に、学年別遊びを取り入れ同学年間の関係を深めたり、小集団遊びや学級対抗で運動をするなど、配慮をしながら集団を変えた環境をつくり、友達関係の構築や広がりを支援する姿勢がよく見られる。

ウ　障がいのある児童の育成支援が適切に図られている

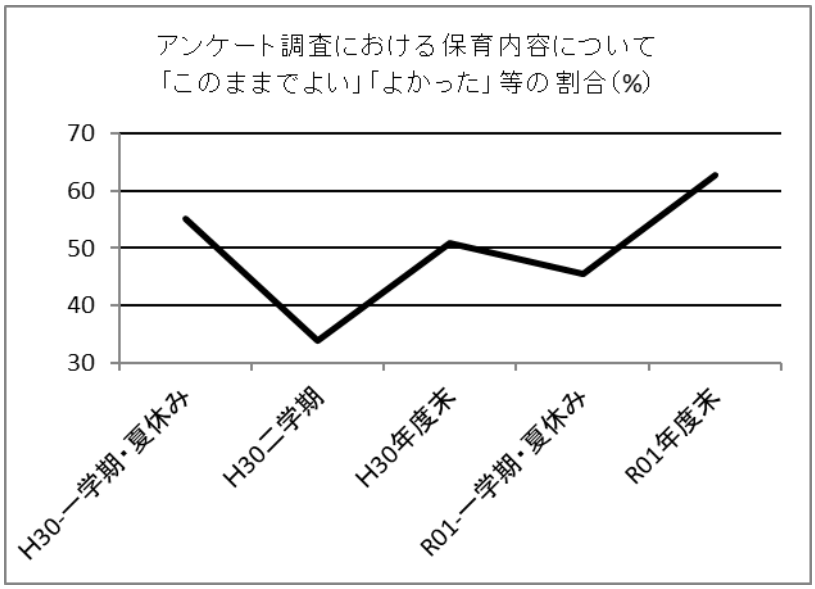
市の職員（スーパーバイザー）等による助言を参考として、週１回程度の小集団保育を実施しており、生活の流れがゆっくりした中で他児とともに楽しみ、児童が積極的に参加している様子が見られる。発達課題が共通する集団での遊びを通じて、児童の特性を引き出したうえで、一人ひとりの健全育成を図っている。

（２）保育内容に対する保護者の意見について

保育内容に対する保護者の意見については、これまで行った５回のアンケートの調査結果から、回答があった過半数の保護者は「このままでよい」や「よかった」等の回答をしており、平成 30 年度の１年間は評価が分かれる結果となっているが、令和元年度末には約 63%の保護者が評価しており、保護者の信頼を得られる関係性を構築してきていることが読み取れる。

平成 30 年度二学期のアンケートにおいて「このままでよい」の次に多かった回答である「もっと指導員が中心となりあそびを組み立てていくべきである。(13.8%[13 人])」が、令和元年度末では 3.9%[2 人]に減少したが、平成 30 年度二学期の「社会のルールやマナー等の社会的な規範を高める活動をするべきである。(13.8%[13 人])」が令和元年度末では 15.7%[8 人]と、人数は減少しているものの比率として増加している。二学期のアンケートの自由記述に見られた「力をもった子が野放しにされている感じ」、「子供達をまとめきれていない印象を受ける」という意見があり、令和元年度末ではそのような記述回答はなくなっているが、学習活動において「にぎやかな子供が多く集中しにくいよう」という意見があることから、児童への指導面について引き続き改善を求められているものと推察できる。【表 4】。

【表 4】



（３）イベント（季節ごとのイベントや誕生日会等）について

他の育成室と同程度にイベントを実施しており、おやつクッキングや水鉄砲大会、凧揚げは児童が作るところから指導している。毎月開催している誕生日会は、好きなデザートをケーキ屋に注文する形で工夫をしている。大規模に行うあやめカーニバルでは、班ごとに児童自らが考えた遊びコーナーを設け、学校の友達を招待し双方が楽しむことで児童の達成感や自信に繋がっている。

（４）おやつの提供について

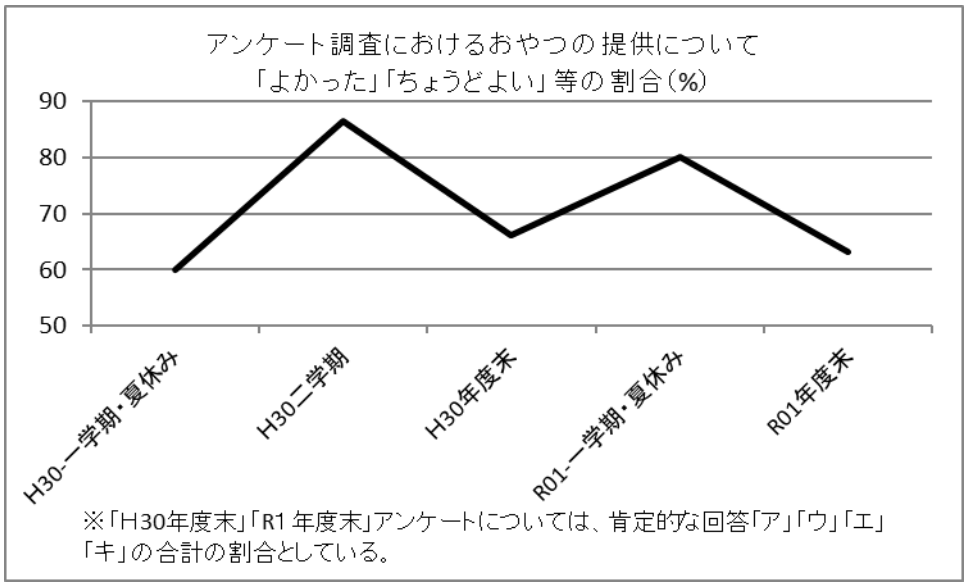
北山田育成室においては、おやつのメニューを１週間ごとに保護者に配付しており、アレルギーを持つ児童の保護者とは随時確認をとるなど、連絡を密にして誤食を防いでいる。また、冷蔵庫にリストを貼り出し、記名シールを貼った皿で提供するなど、アレルギーを持つ児童が誤って食べないように、指導員及び児童本人が見て分かるように提供することで万一の事故を防止している。

なお、おやつは栄養バランスやアレルギーに配慮して選んでおり、一品は手作りのものを入れて提供するようにしたり、果物など季節を感じられるものを取り入れるなど児童の食への関心が広がるよう工夫している。

（５）おやつの提供に関する保護者の意見について

アンケートの回答では、【表 5】のとおり、おやつに関して「よかった」や「ちょうどよい」等の肯定的な意見が、平成 30 年度の二学期では約 87％と高い評価を得ていたが、平成 30 年度末では 60％台に減少している。平成 30 年度末のアンケートから、回答の選択肢をより細分化し、従来の 5 択から 12 択にした（自由記述回答を含む）ことで、より詳細な意見が聞き取れるアンケートに変更したことも影響していると思われる。令和元年度末の回答結果を見ると、おやつの量に関して「量はちょうどよかった（23.5％[16 人]）」に対し、「量は少なかった（4.4％[3 人]）」、「量が多すぎた（11.8％[8 人]）」という回答もあった。また自由記述欄では「補食となるようなおやつがよい」といった回答がある一方、「スナック菓子ではなく、栄養面も考慮されており満足している」という回答もあるので、保護者に耳を傾けて丁寧に意見をくみ取りながら、栄養価や腹持ち等の補食の観点、種類のバランス等の様々な要素を考慮し、より良い運用方法を継続して検討し、実践していってもらいたい。

【表 5】



３　指導員について

（１）指導員の配置について

北山田育成室の指導員の配置については、３教室での運営であるため、教室に配置する指導員が６名となっている。また、配慮を要する児童に対する加配が３名必要であるため、１日当たり９名の指導員の配置が必要。１教室に常時３名の指導員を配置しており、欠勤等が生じる場合も柔軟な配置対応ができる体制であり、きちんと配置できていた。また、校外保育の際は、同法人が経営する近隣の保育所で勤務する保育士を補助員として加配するなどの対応もしており、保育内容に応じて児童の安全面に配慮する姿勢が見られた。

保有資格としては、正規雇用の指導員は、保育士または教諭の免許を保有しており、非正規雇用の指導員についてもおよそ半数は、保育士や教諭の免許を保有している。

放課後子ども育成課の職員やＳＶとも積極的に連携や情報共有を図り、育成室の保育内容の充実・向上を図る努力を感じることができた。

（２）指導員の児童との関わりについて

挨拶や気持ちを言葉で伝える、相手の話を聞くなどの基本的な生活習慣を身に付けられるよう頻繁に児童に対して声を掛けており、特に、持ち物整理や使った物の片づけなどの指導をしている場面が多く見られた。児童の自己管理を徹底させている姿勢が見られる。また、お礼や謝るときには言葉を声に出して言えるよう指導しているが、それが難しい児童には指導員が積極的に関わって代弁するなど、児童間のコミュニケーションが円滑にいくよう指導員は目を配っている。指導員と児童の信頼関係がしっかりと構築されているため、北山田育成室は笑い声が響き、楽しい雰囲気を持った育成室となっている。

（３）指導員に関する保護者からの意見について

令和元年度年間を通じてのアンケートにおいて、指導員についての設問がある。この設問は複数回答可としており、指導員に対して保護者がどのような考えを持っているかを聞く設問となっている。【表 6】

回答が多かった順に上位 3 つを挙げると以下のとおりなっている。

1 位…「連絡帳や電話などを使い、育成室での出来事を保護者に適切に伝えることができていた」18.3%[22 人]

2 位…「いつも明るく、元気に児童や保護者と接することができていた」14.2%[17 人]

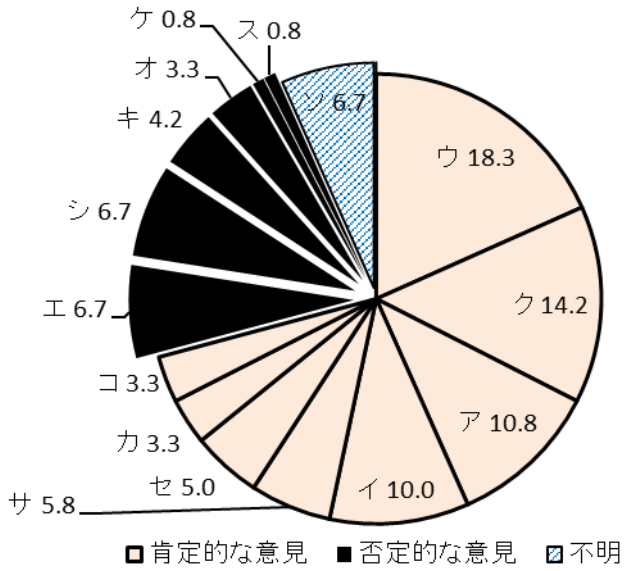
3 位…「児童の相談に乗り、児童の気持ちに寄り添うことができていた」10.8%[13 人]

上位の 3 つの回答で全体の約 43%を占めており、さらに指導員に対して肯定的な意見をすべて含めると、全体の約 71%と中程度の評価となっている。

今後は、少数意見ではあるが、一生懸命業務に取り組んでいないように感じられていたり、日頃の様子を知らせていないと感じている意見があるので、さらに高い評価が得られるように期待したい。

【表 6】

保護者アンケートにおける指導員の評価に関する回答
※各項目の内容については、別添アンケート結果を参照



4　総合的な評価について

（1）放課後子ども育成課による評価について

放課後子ども育成課職員（担当事務職員、スーパーバイザー）による現地視察及び事業者への聴き取りによる総合的な評価として、北山田育成室の運営については、以下の理由により高く評価することができる。

1　育成室では、入室児童が笑顔で楽しく活発に過ごしている。
2　指導員が常に子ども達とコミュニケーションをとっている。
3　連絡事項については、主任指導員、委託事業者、放課後子ども育成課の間で共有が図られており、組織だった運営が行われている。
4　育成室の運営では、直営育成室の取り組みの内容をベースに組み立てられており、新たな取組みは市の職員の助言を参考にして取り入れていく姿勢が見られる。
5　保護者への情報提供の場として、懇談会を育成室全体・個人の両方開催している。個人懇談では保護者支援にも重点を置いて実施するなど、保護者との連携の重要性を理解し、協力関係の構築に努めている。

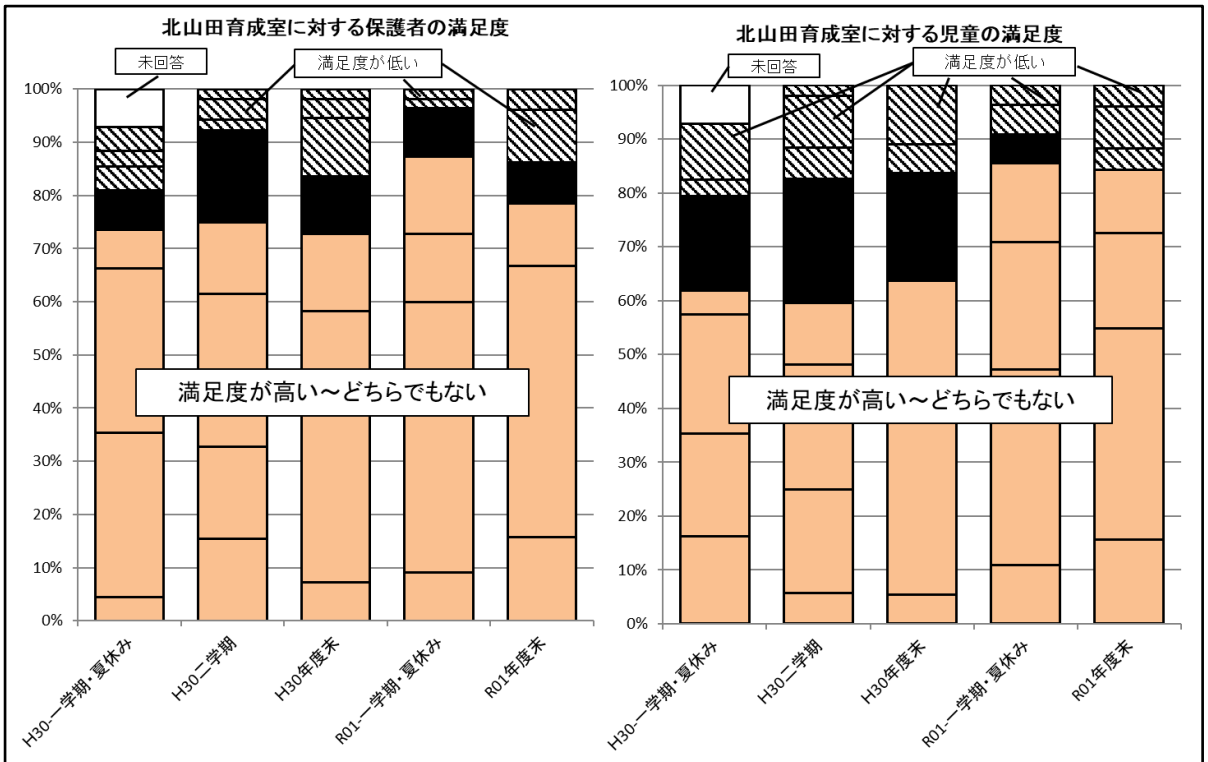
（2）保護者アンケートにおける総合的な評価について

これまでの保護者へのアンケートには、「子ども達にとって北山田育成室はどの程度楽しい場所か？」を聞く設問と、「保護者にとって北山田育成室はどの程度満足できる

ものとなっているか？」を聞く設問を設けている。【表 7】その結果から見える、事業者の運営状況の総合的な評価としては、「保護者や児童からも、概ね高い評価を受けている」と言える。

しかしながら、アンケートでは「もっと毅然とした態度で児童に厳しく接してほしい」等、指導員として求められるべき部分ができていないとする意見もあることから、現在の評価が落ちてこないように、これからも注意していく必要がある。

【表 7】



【表の見方】

	評価が高い						評価が低い	
保護者	とても満足している			どちらでもない			とても不満がある	未回答
児　童	とても楽しい			どちらでもない			とてもつまらない	未回答

5　終わりに

これまでの放課後子ども育成課の職員による視察や保護者へのアンケート等による様々な検証、その他小学校をはじめとする関係機関との日々の連携による状況把握の結果、現在の委託事業者は、平成 30 年度から令和元年度にかけて適正な保育や育成室運営が行われていることが確認できた。

アンケートの自由記述欄においても、「行事を様々に工夫して行ってくれている」「要望を伝えればすぐに改善してもらえている」等、保護者が満足している内容の感想が書かれた記述がある一方で、「臨時の指導員への指導不足を感じる」「伝達不足が多い」等、指導

員に対する保護者の率直な意見が書かれている。

現在の委託事業者には、このような保護者の意見を真摯に受け止め、注意すればすぐにでも改善できる内容もあることから、さらなる保護者との信頼関係を構築してもらいたい。また、今後とも現在の方針を継続し、保護者、学校、放課後子ども育成課としっかり連携を密にした運営を行い、同時に、普段から子ども達と保護者の声に耳を傾けて、改善が必要なところはないかを丁寧に検証しながら、更なる向上を目指してもらいたい。